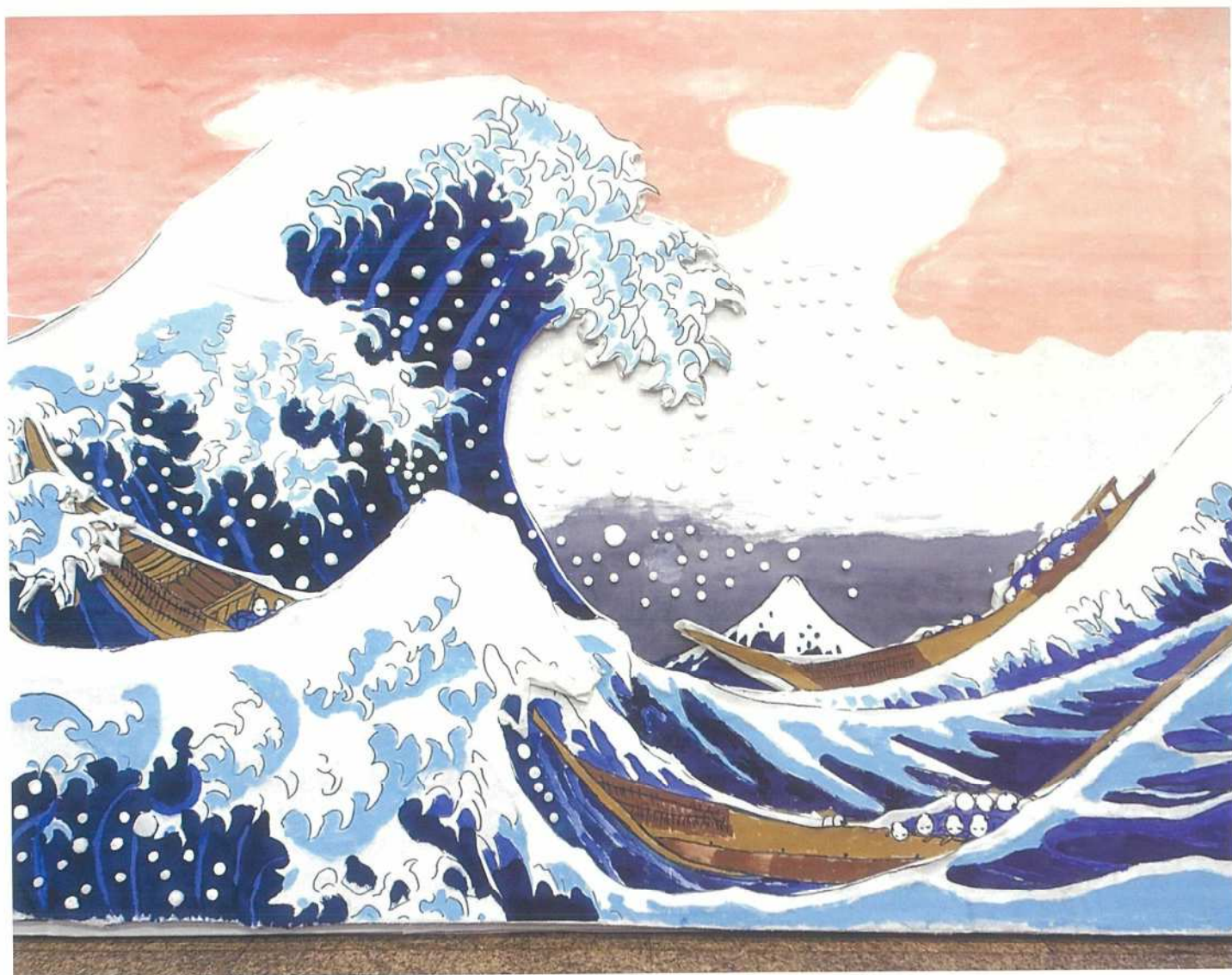


病院理念

『患者様一人一人を大切に、人と人とのつながりを大切に』



平成30年度ものづくり 合同作品「立体おえかき」

目次

院長挨拶 .....	2
3北病棟紹介 .....	3
デイケア通信 .....	4
ノロウイルスについて .....	5
武田病院の花々、講演会紹介 .....	6



# 新年のご挨拶

理事長・院長 武田龍太郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。旧年中は当院の診療、運営についてご理解およびご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、大阪北部地震、台風による西日本の災害、北海道地震などの突発的な大きな自然災害が発生したのは記憶に新しいところです。被害に遭われた方々およびその関係の方々に心よりお見舞い申し上げます。近年は、これらのような大きな自然災害が増え、私達の身近でも、昨夏の猛暑による健康障害や、集中豪雨による洪水や土砂災害の危険性の増大など、誰もがいつ被災するかもしれず、日常的な緊張感も高まっています。

また、昨年はスポーツ界をはじめとするハラスメント問題が取り上げられ、その度に過熱した報道がされ、私達自身の気持ちもゆさぶられ、ハラスメントの問題自体と同時に報道のあり方も議論になりました。この問題の背景には、組織と個人の関係が時代により大きく変化してきたことがあります。以前は個人の人権よりも組織の規範や慣習、年功序列といった既成の価値観が重視される風潮でしたが、多様性を受け入れ、個人を尊重する社会へ変化しつつあり、組織も個人の権利や価値観を配慮する必要性が認識されるようになりました。この動向は、多くの価値観が共存していく時代となったことを示すものですが、一方では軋轢も生じやすく種々のストレス要因にもなり得るとも言えます。

更に経済分野では第4次産業革命といわれるビッグデータやAI(人工知能)の活用の時代が到来しようとしています。情報化とともに生産効率の向上を目指して産業構造が大きく変化しつつあり、これまで人が担ってきた製造業やサービス業の分野までその波が広がろうとしています。これにより、全てがデータ化、機械化されてしまい、これまで培ってきた人類の「情緒や共感」といった目には見えない重要な能力である人とのつながりや信頼感の醸成などが失われてしまうのではないかという懸念もされています。

さて、本年は平成から新しい年号に変わります。核問題をも含む国際情勢の混沌化、我が国での少子高齢化による財源・福祉問題など、多くの先が読めない要素を抱える「不安の時代」とも言えますが、これらの不安にどう私達は向かい合っていけば良いのでしょうか？

現実的には、社会的な問題に対して政治経済や社会的側面からの対策が大変重要であり、加えて私達の「こころのあり方」としての対処/工夫も重要な要素となってきます。そのヒントとなる嬉しい出来事が昨年2つありました。

一つは高齢のボランティアの方が遭難した行方不明の男児の捜索を自分の生活よりも優先し、いち早く発見できたこと、もう一つは屈託のない笑顔を見せ、感謝の気持ちを素直に表現する女子テニスの大坂なおみ選手の活躍が脚光を浴びたことでした。このお二人に共通するのは、密着取材でも言動や行動に裏表がなく、他の方に対して思いやり、利他的な気持ちを重視し、信念を持ちながら実際に行動・実践していることでした。その優しい気持ちは私達のこころの琴線にふれるものであり、他者への共感、思いやりが、更に共感をよびました。このように周囲の人に共感し、優しい気持ちを持つことができれば不安を和らげるにつながります。

しかし、一口に他者を思いやり、共感するといっても、そのような交流の機会や場所も減っており、機会があってもつい、感情的になり相手に対して強く主張したり、自分の思いを抑制しすぎたりといった交流になりがちです。今後は地域や趣味などを通じた交流の場を確保すると同時に、自らの気持ちや考えを相手に伝え、コミュニケーションを円滑にする工夫が有効になります。それには、先ず穏やかな表情や態度で相手の話を傾聴し、それに対し自分の意見を伝え、意見が異なればその代案を出してみるという事を意識することが役に立ちます。

当院は、様々な方のご意見を伺いながら「一人一人を大切に、人と人とのつながりを大切に」という基本理念に基づいて地域で必要とされていることを実践していきたいと思っております。

皆様には、こころのゆとりを少しでも多く持っていただき、皆様にとって本年が幸多き一年となりますよう祈念しております。

本年も何卒よろしくご願い申し上げます。





## 3北病棟の紹介

精神科急性期治療病棟の閉鎖病棟です。

短期間(3ヶ月以内)の入院で集中的な治療を行うことで患者様の状態を改善し、ご自宅へと退院できるように治療をおこなっていくことを目標にし、3北病棟では患者様に寄り添い、共に歩む看護を目指しています。

看護職員も規定より多く配置し、きめ細やかな看護を行っています。



### ラジオ体操

1日1回10時半から、職員も一緒にラジオ体操を行っています。緊張した身体をほぐし、気分転換にもなります。体側の伸び、呼吸の入りなどを感じられリフレッシュすることができます。



### オリエンテーションミーティング

入院に慣れて頂く為、入院間もない方を対象に病棟のルールや質問に答え、安心して入院生活を送れるように催しています。その他にも、病棟で生活する中で生じた疑問などには、随時お答えしていきます。

### 心と薬の勉強会 うつと躁の勉強会

医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士などの他職種にて、患者様向けに勉強会を行っています。各4回の講義を通して、病気や薬の理解を深めて、再発防止について学んでいくことができます。



### 病棟deOT(不定期)

4階の作業療法室から離れ、3北病棟内で行う作業療法です。“こんなことがしたい”など患者様からのご要望やご意見を取り入れながら行っています。これまでの活動はカレンダー作りを患者様と行いました。

参加人数は5～6人程度ですが、毎回楽しい雰囲気です。

患者様の自主性を尊重し、患者様同士相談しながら作品完成を目指せるように関わっています。



食堂には大きな窓があり、あたたかな陽の光が差し込んできます。ご家族の面会や、患者様同士で談笑したりしています。



ベッド数は32床。おひとりですっきりと静養したい方のために7室の個室をご用意しております。また、4人部屋や2人部屋であっても、それぞれカーテンで仕切られており、プライバシーの保護に配慮しています。



## 卓球部紹介



卓球部は外部講師の田辺武夫先生に来ていただき、卓球の練習を行うプログラムです。月に2,3回、特別プログラムとして木曜日又は土曜日に行っています。練習の内容としては、サーブやレシーブの練習、球への変化のかけ方等様々な練習しています。田辺先生は一人一人に合わせ細かく丁寧に教えてくださり、どのメンバーさんも1回のプログラムが終わる頃には見違えるようです。今まで卓球をしたことのなかったメンバーさんも多く参加されており、メキメキ上達しています。卓球部を楽しみにしているメンバーさんも多く、卓球部プログラムのある日には皆さん目の色が違って見えます。

### メンバーからの感想

- ナイスガイの田辺先生が親切・丁寧に教えてくれます。興味のある方は卓球部にGO！
- 初心者から上級者までそれぞれのレベルに合わせて指導してくれます。雰囲気も和やかですごく楽しいです。
- 個人に合わせた教え方なので、自分の中で課題の明確化やレベルアップを実感できた。
- プロの先生の球はとてちやくすくいい球を返せた！



Q 変化を感じることはありますか？

A 最初のうちの練習では、こちらにお任せという感じでしたが、段々とメンバーさんが自分の課題や疑問点を自分で見つけて、質問してもらえることが増えました。気持ち的には嬉しいし、練習効果も上がると思います。

先生にインタビュー！



Q これまでやってみてデイケアの印象？

A 「よろしくお願いします」「ありがとうございました」と言ってもらえることが多く、礼儀正しい人が多いと感じます。

Q みんなへ一言！

A 楽しくやれていますか？自分のできること、できるようになっていることに目を向けることを忘れずに楽しくやりましょう！





# 「ノロウイルス」って何だろう？



## どんな特徴があるの？

- ・年間を通して発症するウイルス性食中毒
- ・感染力が強く少量でも発症する
- ・人の小腸のみで増殖
- ・人から人へ感染する事が多い。カキなどの二枚貝が原因の場合もある（接触感染・空気感染・飛沫感染）
- ・症状は下痢、強烈的な嘔吐、吐き気、腹痛

## どこからくるの？

- ・汚染された食品
- ・まな板などの調理器具
- ・感染者の嘔吐物や便、手指を介した二次感染
- ・手すり、ドアノブなどからの二次感染

## 予防方法

- ①手洗い・うがい
- ②食品の加熱をしっかりと中心部まで（つけない、増やさない、やっつける）
- ③普段の体調管理

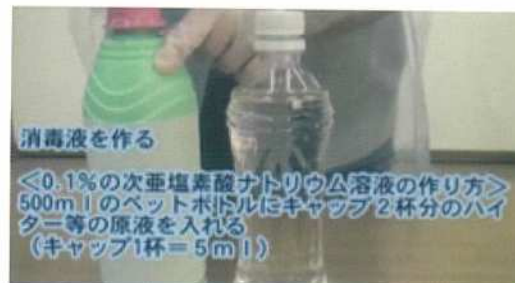
1 汚物に吸水シートをかぶせる。	2 紙製ヘラを組み立てる。	3 汚物を吸水シートごとヘラですくい取る。	4 ポリ袋に回収する。 ※使い終わった紙製ヘラも。	5 床に吸水シートを敷く。
6 除菌剤をまく。	7 吸水シートで拭き取る。	8 ポリ袋に捨てる。	9 手袋をポリ袋に捨て、新しい手袋を着用する。	10 除菌剤をポリ袋に入れる。
11 ポリ袋の口を縛り未使用のポリ袋に入れる。	12 使用した手袋、帽子などをすべてをポリ袋に入れ、口を縛り捨てる。	13 手洗い・うがいを充分に行う。		

## 家族にノロウイルス症状でた時 ＜嘔吐してしまった！＞



- ・換気をしてウイルス量を減らす
  - ・使い捨て手袋・マスクを着用してから作業する（下痢をしていたらおむつ替えも手袋をする）
  - ・吐物に新聞紙等をかぶせて次亜塩素酸をかけて消毒。ウイルスは広範囲に飛び散るので2m四方を消毒液で拭き上げる
  - ・処理後の手洗いをしっかりとしましょう
- ※食品関係のお仕事をされている方は報告の有無があるか確認をすると良いでしょう

## 次亜塩素酸消毒液の作り方



# 職員研修会を行いました

武田病院では、職員研修を年2回実施しています。今回は、ノロウイルスに感染した場合の実践的な吐物処理の対応・実技について行いました。

ノロウイルスに感染した人の嘔吐物や糞便には大量のウイルスが排出している可能性があります。感染拡大を防止するために「素早く」「適切に」処理する事が肝心である事を学びました。

手順を把握し、実際に発生した時の流れを確認しました。ペットボトルを使った次亜塩素酸ナトリウム消毒液の簡単な作り方は家庭でも出来るので大変役に立つ内容でした。





# 武田病院の花々

## Botanical Life



撮影場所 3南病棟、1病棟、ダイケア  
Photo by A.Kaku, H.Tsunoka



植物の手入れをしていると、素晴らしい香りに出会います。ある長野の病院にはハーブガーデンがあり、緩和ケアの看護師が摘み取ったハーブが、患者様の枕元に置かれるそうです。植物の香りは、自律神経系や内分泌系、免疫系に影響を与えます。そして、良い香りだなあと思う香りはその人にとって必要な香りだと言われます。花を見たり、好きなハーブの香りをかいで、植物から沢山エネルギーをもらって下さい。



武田病院でも、病棟のテラスや病院の玄関、周りの植え込みなど様々なところに植物を植えています。たくさんエネルギーをもらってみたいかがでしょうか。

ぜひ探してみてくださいね。



## 講演会が行われました

平成30年12月15日(土)第29回講演会「心と体の健康管理」を、当院にて開催いたしました。北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学 田中克俊教授をお招きして、「健康づくりのための睡眠」をテーマにご講演して頂きました。また、武田病院 赤堀正内科診療部長より「生活習慣病予防に役立つウォーキングのすすめ」を講演致しました。とりわけ『眠る』ということについて、皆様に興味を持って頂けたようで、質問等も多く、盛況な講演会となりました。

編 集 後 記

平成最後の T タイムとなりました。年号が変わると共に新しい時代を迎える事となるのでしょうか？私達は病院理念である「一人一人を大切に、人と人とのつながりを大切に」を忘れずにこれからも励んで参ります。何卒よろしくお願い致します。